

**第1回目黒区消防団運営委員会会議録**  
(令和5年8月16日付け都知事からの諮問に対する審議)

**1 開催日時、場所**

令和6年1月30日(火) 午後2時から3時30分まで  
目黒区総合庁舎4階特別会議室

**2 出席者(敬称略)**

(1) 委員長

青木英二(目黒区長)

(2) 委員

伊藤ゆう(都議会議員)、西崎つばさ(都議会議員)

岸大介(区議会議員)、上田みのり(区議会議員)、佐藤ゆたか(区議会議員)、  
岩崎ふみひろ(区議会議員)

齊藤悦弘(目黒消防署長)、三木廣(目黒消防団長)

(3) 事務局

目黒区：副区長、危機管理部長、防災課長

目黒消防署：警防課長

**3 傍聴者**

なし

**4 諮問事項**

「変化する社会情勢に適応し特別区消防団の組織力を向上させ住民の負託に応え続ける方策はいかにあるべきか」

**5 議事**

- (1) 令和5年度特別区消防団運営委員会への諮問について
- (2) 諮問事項に対する検討の方向性について
- (3) 今後の審議予定について

**6 配布資料**

- (1) 目黒区消防団運営委員会委員名簿
- (2) 令和3年度特別区消防団運営委員会の答申及び対応方針について
- (3) 令和5年度特別区消防団運営委員会への諮問について(写し)
- (4) 諮問事項に対する検討の方向性について
- (5) 審議予定

## 7 会議概要

- (1) 開会
- (2) 委員長あいさつ
- (3) 委員の紹介
- (4) 会議の公開等の取扱いについて
- (5) 報告事項

【令和3年度特別区消防団運営委員会の答申を踏まえた対応方針について】

事務局： 昨年度末に答申を行った「大規模地震発生時における特別区消防団の消火活動能力を向上させる方針はいかにあるべきか」について、主な対応方針については、各区の消防団運営委員会の答申を集約し各種施策を講じていく。

- 1 本業等をもち、時間等の制約がある消防団員が効率的・効果的に活動能力を向上させる方策
- 2 デジタル環境を有効活用した知識・判断力等の向上方策
- 3 消火活動能力を低下させないための入団促進及び充足率の維持向上方策
- 4 効果的かつ負担軽減した装備資機材の検討

これまでの答申内容及び対応方針に沿って、特別区消防団の更なる活動能力の向上を図っていく。

(質疑なし)

### (6) 議事

ア 令和5年度特別区消防団運営委員会への諮問について

事務局： 令和5年8月16日付けで小池百合子東京都知事より「変化する社会情勢に適応し特別区消防団の組織力を向上させ住民の負託に応え続ける方策はいかにあるべきか」について、目黒区消防団運営委員会委員長宛に諮問がなされた。

「消防団充実強化法」において、消防団は地域になくてはならない代替性のない存在であり、地域防災力の中核であると明記されている。DXの進展による生活スタイルの多様化や社会システムの変化など、時勢の変化に対応しつつ、更に消防団を充実させ、住民の負託に応え続けていく必要がある。さらに、目黒区の地域特性なども踏まえながら検討を進めていく。

(質疑なし)

イ 諮問事項に対する検討の方向性について

事務局： 課題及び検討事項等

**課題1** 「地域防災の要である消防団として変化、成長していくための方策」

**【検討事項 1 - 1】**

入団し活動を継続したいと思える組織の活性化方策について、区の地域特性や消防団の現況（構成等）を踏まえ検討する。

**【検討事項 1 - 2】**

最新の技術等を考慮した活動環境の改善方策について検討する。

**課題 2** 「活動力を地域で発揮していくことで、地域住民の負託に応え続けることが重要である。」

**【検討事項 2 - 1】**

消防力維持のため、計画的な人材育成方策について検討する。

**【検討事項 2 - 2】**

地域に尽力している消防団を地域住民により知ってもらう方策について検討する。

**【委員意見①】**

委員意見： 地域住民により知ってもらう方策について、町会や自治会の地域防災訓練時に消防団が連携し、積極的に交流する機会を設けることで、若い世代が消防団などにより興味や関心を持つという機会も増えると思うが、強化方向としてはどうなのか。

事務局： 消防団が地域の中の指導者として住民に指導する姿というのは住民にとっても非常に頼もしい存在である。その地域の中の町会や事業所、学校など、多様な主体と連携して訓練等を進めていければと考えている。

**【委員意見②】**

委員意見： 消防団員に若い方が少なく、圧倒的にご年配の方がリーダーシップをとってやっている。若い方をどう確保していくかは課題と感じている。若い方に入団してもらうために、具体的な啓発活動や研修システム態勢などをどう考えているのか。

事務局： 若い方の力はどうしても必要だと認識している。広報では、学生向けには楽しさを伝えるような広報を、紙媒体だけではなく SNS 等、ネット環境を使った広報も検討する。

研修についてもオンラインを使用しつつ、やりやすい研修の仕組みや、少しずつステップアップできるような方策も考えていく。

**【委員意見③】**

委員意見： ICT化について、入団届を紙で提出した団員がいたが、入団届以外にも団員の報告も全部紙媒体で出していたりするので、オンライン化等の改善は必要

である。

情報伝達のあり方として、SNSを使った分団内での情報共有が有効に作用している。現状、分団内で外部サービスを工夫して使用しているが、全体的な連絡体制として組み立てられているものはあるか。

人材育成について、e-ラーニング等の研修機会を提供してもらっているが、消防団全体で均一化や、横のつながりを通じて、意識を皆で高めていくことも必要だと考える。

地域住民に知ってもらう方策で、防災訓練や、さまざまな行事で地域の方との交流や、理解をしてもらうという視点は非常に大事だと思う。地域に根差して活動する消防団の皆さまが地域に知られていないというのは、課題である。消防活動に限らず、様々な消防団としての活動を通じて交流できれば、住民の皆さまとの距離が近くなると思うので、検討が必要である。

事務局： 入団エントリーは東京都の電子申請システムが導入されているが、時勢に応じたICT化等も変化していかなければならないと考えている。

情報伝達については、タブレットが導入されており、アプリを試行的に入れている。セキュリティとのバランス等、試行錯誤している段階である。

人材育成の部分は、知識、技術があっても、意識が育たないと、なかなか継続が難しくなっているのが、答申の中で反映できるようにする。

地域の活動においては、地域の中に様々な団体や組織があるので、訓練等を通して交流し、総合的に防災について考え、防災力をつけていただくことは大切であると考えている。

#### 【委員意見④】

委員意見： 活動の環境について、各消防団の方とお話をすると、災害時の拠点となる環境(待機場所の面積や施設の古さ)に大きな差がある。待機場所等については、平等な環境の中で、災害に対して活動できる最低限の環境を整えていくべきではないか。

事務局： 各分団施設に差が生じてしまっているのが現状である。予算の関係もあるので、消防団課にも情報提供を行っている。用地の確保も必要になるが、環境が悪い、狭すぎる等の意見を是非いただきたい。

委員長： この件に関して、最大の課題は用地である。新たに完成する施設もあるが、施設整備に対してバックアップできればと考えている。

#### 【委員意見⑤】

委員意見： 安全安心を提供するためには、「団員の充足」は絶対的な量の問題として、重要なのではないかと考えているが、過去の定足数や推移等、議論のベースに

なるデータがあった方がいい議論ができると思う。定数を満たしていくことに重点があるのであれば、(募集活動に効果のあった) 5分団の例をまとめて事例として紹介しても良いのではないか。

入団した方がすぐに辞めている例は結構あるのではと思っているが、何が原因で辞めるのか等、アンケートは取っているのか。

事務局： 退団の理由は、必ず退団届に記載いただいている。こちらからも、機能別団員や大規模災害団員として残っていただけないか、ライフスタイル等を考慮して様々な制度をお伝えした上で、最終的に判断いただいている。

委員意見： 団員の負担軽減について、様々なイベントは増加傾向にあって、会場警備には必ずと言っていいほど消防団に声がかかると思うが、この議論はどうなっているか。

事務局： 副団長とか役職付きの方とかは、非常に多い傾向にある。費用弁償等の回数で統計を出せるので、分析をしていく。

委員意見： 負担軽減の一番のポイントは人数を充足させることもだが、人数が充足されても分団長の負担は決して減らせないので、根本的な議論が必要である。

日中に目黒区外で働いている、会社員のような職制の消防団員が、実感として増えた気がする。割合などはわかるのか。

事務局： 調べないとデータはない。

委員意見： 平日日中に首都直下地震が起きた場合は、消防団員が目黒区内にいないということも考えられる。また、日中に授業を行う地元の高校生や都立高校の学生と消防団員との触れ合いは少ないように感じる。高校生は肉体的にも精神的にも様々な意味で成熟しているので、検討が必要である。都立高校こそ小中学校よりも敷地が広いので連携を図ってもらいたい。

最後に情報伝達について、各分団アプリを活用できているのか。

事務局： 全ての分団については、調査が必要だが、活用についてはお願いしている。

委員意見： ここ1～2年間で急激にアプリを使用するようになったが、伝えてあげないとアプリを分団として使いづらいこともあると思うので、確認をお願いします。

#### 【委員意見⑥】

委員意見： 区内の企業に消防団員として登録されている方はどのくらいいますか。

事務局： 現在はわかりません。

委員意見： 日中に発災した場合、区内の消防団員も、区外に働きに出ていてすぐには戻ってくるできない。その際に、区内の企業に勤めている方々の消防団員を活用すべきじゃないかと思うが、どのような考えか。

事務局： 勤務地団員の制度があり、活用していきたい。

委員意見： 若い方々を勧誘していくことはもちろん、中高年世代にも訴えていくべきで

はないか。

事務局： 目黒区にお住まいの方、勤められている方に対し、広く訴えていくことが必要である。発災時に目黒区に消防団がないという状況も考えられるので、様々な世代にアピールしていくことが重要である。

ウ 今後の審議予定について（案）

事務局： 本日は第1回委員会として、審議内容等について調査検討を行い、答申の骨子・素案の作成に取りかかる。令和6年度に入り、7月から9月頃に第2回委員会、令和7年1月頃に答申案をまとめ審議いただき、答申期日（令和7年3月31日）までに委員長名をもって答申する予定である。

（質疑なし）

(7) その他

目黒消防署長、目黒消防団長からあいさつ

## 8 閉会